

今週の為替相場見通し(2021年8月30日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.42 ~ 110.26	109.85	109.00 ~ 110.50
ユーロ	(ドル)		1.1694 ~ 1.1802	1.1798	1.1720 ~ 1.1840
(1ユーロ=)	(円)		128.48 ~ 129.76	129.56	128.60 ~ 130.00
英ポンド	(ドル)		1.3610 ~ 1.3781	1.3761	1.3700 ~ 1.3900
(1英ポンド=)	(円)	*	149.40 ~ 151.60	151.22	150.00 ~ 152.50
豪ドル	(ドル)		0.7120 ~ 0.7317	0.7310	0.7250 ~ 0.7450
(1豪ドル=)	(円)	*	78.13 ~ 80.35	80.33	79.75 ~ 81.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 原田 和忠

(1) 今週の予想レンジ: 109.00 ~ 110.50 円

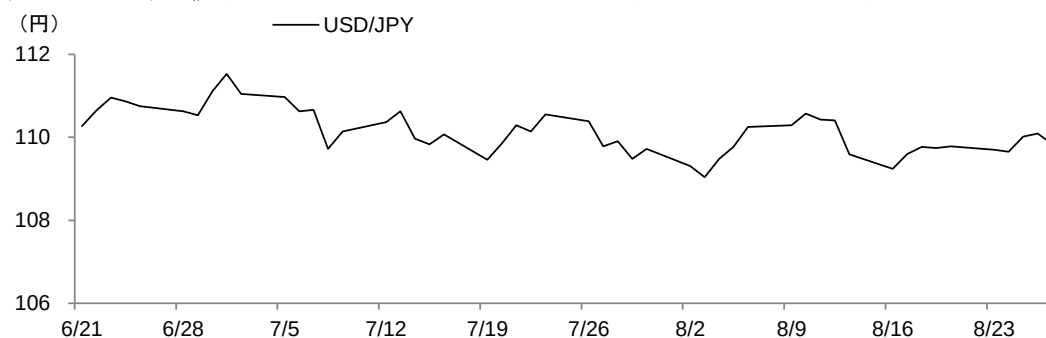
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は小幅に上昇する展開となった。週初23日、109.85円でオープンしたドル/円は日経平均株価の堅調推移を受けリスク選好の円売りの流れとなり110円台を回復。その後はテーパリング開始時期の後ずれ観測が強まり109円台半ばまで押し戻された。24日、ドル/円は前日のリスク選好地合いが概ね継続したが、海外時間に円売りが強まって一時週安値の109.42円まで急落した。円売り一巡後は109円台後半を推移した。25日、ドル/円は前日同様、109円台後半で揉み合いとなったが、海外時間では米7月耐久財受注が市場予想を上回ったことや米株の堅調推移から110円台を回復。その後は、様子見ムードが強くポジション調整による戻り売りから再び109円台後半まで値を下げた。26日、ドル/円は110.22円をつけたが、翌日にジャクソンホール経済シンポジウムが開催される中、積極的な取引は控えられやや方向感に欠ける値動きとなった。27日、ドル/円は110.06円でオープン。この日はジャクソンホール経済シンポジウムにてパウエルFRB議長の講演が行われ、年内にもテーパリングを開始する可能性を示唆したものの、その後の利上げについては急がない考えを示した。これを受けてややハト派的と捉えられ、ドル売りで相場は反応。結局110円を割り込み、109.85円で越週した。

今週のドル/円は底堅い推移を予想。先週行われたジャクソンホール経済シンポジウムでは、パウエルFRB議長の講演が行われた。講演では、年内にもテーパリングを開始することを示唆したものの、テーパリングは利上げ開始とは別とする考えを示したことで、ややハト派と捉えられた。一方で、週末には雇用統計の発表を控える。サプライサイドの懸念により経済成長にやや懸念がある中、FOMC議事要旨においてふれられている通り、利上げについては経済指標の結果しだいということだろう。一方で、米国では新型コロナワクチンの接種者と未接種者に行動制限の違いを課すことで、感染抑制とワクチン普及を同時に行う政策を実施。加えて、3回目の追加接種の試みが開始に向けて準備されるなど、経済の本格始動は待ったなしの状況である。係る状況下、テーパリングという明確な方向感是不変である中、現状低位安定している金利も、下がりにくくなりドル/円も金利を横目に底堅い推移となろう。重要指標の発表は、1日(水)に米8月ISM製造業指数、米8月ADP雇用統計、2日(木)に米7月貿易収支、3日(金)に米8月ISM非製造業指数、米8月雇用統計の発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/23~8/27)の値動き: 安値 109.42 円 高値 110.26 円 終値 109.85 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 1.1720 ~ 1.1840 128.60 ~ 130.00 円

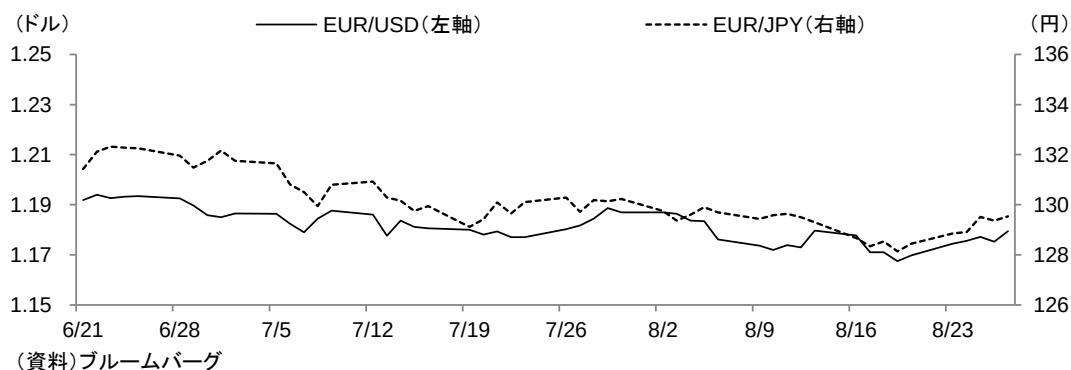
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は底堅い推移となった。週初23日、1.17付近でオープンしたユーロ/ドルはオープン直後に一時週安値の1.1694をつけた。その後は先週のリスク回避の流れが一巡し、ユーロの買戻しが進む展開となり、加えて米国のテーパリングの後ずれ観測や米金利低下に伴うドル売りが優勢となると、1.17台半ばまで上値を伸ばした。24日、ユーロ/ドルは株式市場や原油価格が堅調に推移する中、じり高の展開となって、1.17台半ば付近を底堅く推移した。25日、ユーロ/ドルは米金利上昇に圧迫され、1.17台前半まで下落したが、その後は米株高を好感したユーロ/円の上昇に連れ高となり、1.17台後半まで上昇。26日、ユーロ/ドルはECB政策理事会議事要旨の公表を前に一時1.1779をつけたが、翌日にジャクソンホール経済シンポジウムを控え様子見ムードが広がった中、小幅な値動きが継続した。27日のジャクソンホールでは、FED要人から、年内テーパリング開始との発言が相次ぐ一方、パウエル議長が年内とは言及するも、明確な時期について言及を行わなかったことなどから、ハト派色が強い内容と受け止められ、ドル売りが強まる中でユーロ/ドルは一時週高値の1.1802まで上昇し、1.1798で越週している。

今週のユーロ/ドルは方向感の乏しい展開を予想する。先週末のジャクソンホールでは、FED要人が相次いで年内のテーパリング開始について言及を実施。メスター・クリーブランド連銀総裁は“9月のテーパリング開始に違和感はない”、ボスティック・アトランタ連銀総裁は“10月のテーパリング開始は妥当”など具体的な期日に言及している状況。一方で、前述の通りパウエル議長が時期について年内という言及に留めたのは、どうしても弱気に見えてしまう。テーパリング開始時期を読み解くに当たって、米経済指標への関心が今まで以上に高まっていくと想定される中で、月末ならびに月初の米経済指標週を迎えることになる。8月に出た指標を振り返ると強弱まちまちの内容。デルタ株の蔓延などのノイズも大きい。結局、大きな転換点となりうるサプライズを伴った結果は出にくいのでは(サプライズを伴った結果となっても消化できるほど先は見通しにくいのでは)と考えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/23~8/27)の値動き: (対ドル) 安値 1.1694 高値 1.1802 終値 1.1798
(対円) 安値 128.48 高値 129.76 終値 129.56



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3700 ~ 1.3900 150.00 ~ 152.50 円

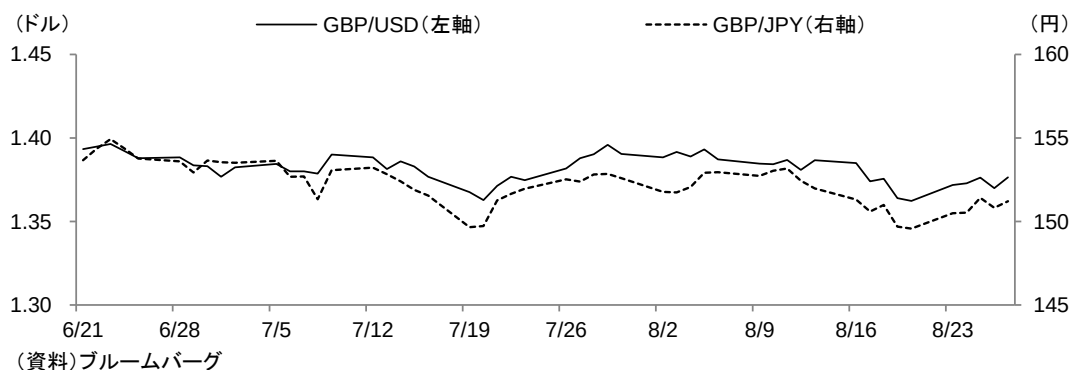
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、予想外の堅調。対ドル、対円では、明確に水準を切り上げた一方、対ユーロでは、上昇はしたものの、その上げ幅は限定的にとどまった。ポンド堅調の背景に、これと言った要因は乏しかった。英経済指標に目を引くものはなかった(敢えて挙げるなら、23日の英8月製造業/サービス業PMI暫定値などはむしろばつとしない内容で、原材料不足や人手不足の悪影響などが懸念された)、当地のニュースはアフガン情勢とパラリンピックがほとんどを占め、ポンドの値動きに影響しようもなかった。前週末のポンド急落は、①中国政府の規制強化/中国景気減速懸念 ②米連銀による早期金融緩和縮小(テーパリング)に対する警戒感 ③アフガン情勢の混乱などを要因視した、「リスク回避の円買い」「有事のドル買い」が寄与したものと思われ、ポンドが売られたと言うよりは、円高、ドル高の反面としての相対的なポンド安と位置づけられた。その解釈を所与とするなら、この間のポンド高が対ドルや対円で鮮明だったのも、前週末に掛けての値動きの反動と位置づけることができたろうし、その動機として、注目のカンザスシティ連銀経済シンポジウムが間近に迫ったことを受けた調整的な反対売買の存在を想定することはできたのではないかと。注目された27日のパウエル米連銀議長講演は、「年内のテーパリング開始が適切になるかもしれない」との発言は、概ね市場が予想した内容との受け止められたものの、「テーパリング開始は、利上げ開始に直接結びつく予兆ではない」との部分は意外感をもって受け止められ、週引けにかけてのドル全面安を招いた。

今週の英ポンド相場は、堅調を予想。7月末までに、市場の一部に、英中銀早期金融引き締め観測が台頭、ポンドが全面高に振れたのを最後に、8月のポンド相場は、概ね、米連銀金融緩和縮小を巡る思惑だけで動いてきた。敢えてその他要因を挙げるなら、世界景気後退懸念や地政学的リスクの高まりを嫌ったリスク回避の円高が、そこに別のベクトルを加えたぐらいか。そういう目線で、パウエル議長講演という絶対的な注目イベントをこなしてしまった今、想定できるのは、米雇用統計待ちの様子見相場。3日(金)の米8月雇用統計を確認するまでは、パウエル議長講演待ちの相場が、米雇用統計待ちの相場に取って代わられるだけのようと思われる。ただし、ポンド側に特段の要因がなくても、何週間もパウエル議長講演待ちの相場を続ける中でも、ポンドは、実際に相応の値幅を出してきた。したがって、米雇用統計待ちの相場で、ポンドがそこそこの値幅を出すのもあり得ることで、そこでポンド堅調を見込むのは、ただ単にドル軟調を見込むからだ。そしてドル軟調を見込むのは、パウエル議長講演後のドル全面軟調に、違和感を抱いたから。大方の市場参加者たちは、同議長が「年内のテーパリング開始を示唆するかもしれない」と構えてきた感があり、そうした向きに取って同議長の発言は「満額回答」に近いものだったはず。同議長の講演に、「テーパリングのすぐ先に利上げが待っている」などという示唆を期待していた人などほとんどいなかったはずだし、同議長が利上げのタイミングにまで言及することを想定していた人がそんなにいたとも思えなかった。そう考えれば、「満額回答」を得て、尚敢えてドルを売る市場にドルを買いたがる傾向=ドルロング(買い持ち高)がたまり易い傾向を読み取ることができたように思われる。目先、米雇用統計待ちの様子見相場に突入するとして、仮に値幅が出るのだとしたら、ドルロングの整理=ドル売りを中心に見込むのが妥当ではなかろうか。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/23~8/27)の値動き: (対ドル) 安値 1.3610 高値 1.3781 終値 1.3761
(対円) 安値 149.40 高値 151.60 終値 151.22



4. 豪ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 大庭 泰典

(1) 今週の予想レンジ: 0.7250 ~ 0.7450 79.75 ~ 81.50 円

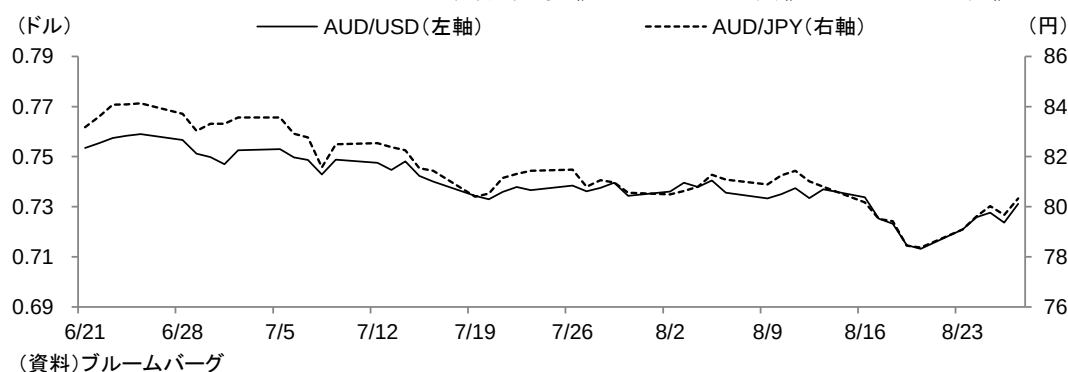
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場はドル安を背景に0.73台まで上昇。23日、0.7120付近で始まると、堅調な株価を背景に買いが優勢となる中、モリソン豪主首相が、ワクチン接種率が上昇すればロックダウン緩和を始める必要があるとの認識を示したことも支援材料となった。米国の一部でデルタ株感染拡大が問題になっており、先週に入り米テーパリングの時期が後ろ倒しになるとの見方が強まった事も米ドル安になった。24日、鉄鉱石等の主要コモディティ価格が上昇に転じたことや、ジャクソンホール会議を控えた米ドル売りの流れから、豪ドルは終日堅調に推移し、0.7260近辺まで上昇。尚、隣国ではホークスビーRBNZ総裁補が前日のインタビューで、金融政策を巡る決定はコロナ動向やロックダウン中かどうかに関係なく結びつけられるものではないと述べ、前回の会合で50bpの利上げも検討していたことを明らかにし、市場では利上げ織込みが進行。NZドルは大きく上昇。25日、0.7260近辺で取引開始後、米株先物の下落を背景に序盤は小安く開始。豪第2四半期建設完工高は予想に届かず、更に下落幅を拡大し0.7240近辺まで低下。その後、欧米時間にかけてリスクセンチメントが回復する中、株価が上昇に転じ、米ドルは上げ幅縮小し豪ドルは0.7280付近まで上昇。26日、0.7270近辺で取引開始後、軟調な株価を横目に売りが先行。欧米時間中にカブール空港周辺で爆発との報道が流れると、株価が急落、豪ドルも下落幅を拡大させ0.7240近辺で引けた。27日は注目のパウエルFRB議長の講演で、年内のテーパリング開始を示唆するも、明確な時期に関して言及しなかったことや、テーパリングは利上げ時期を示すものではないとの見方を示し、ハト派色の強い内容を受けて、ドル売りを背景に豪ドルは0.7310付近で越週した。

今週の豪ドルは底堅い展開を想定。市場が警戒していた米FRBの急激な金融引き締めに対して配慮した発言となり、米ドルが軟調な推移をする展開を背景に豪ドルは0.73台を中心に底堅い推移を想定する。また豪州のロックダウン緩和の流れから、再び経済活動が活性化する期待感もサポート材料となろう。ただ9月末まで規制が長引く見通しもあり、市民の反発とどう向き合うかは注目が集まりそう。また、人権問題を巡り中国と緊張感が高まっていることは気になるが、中国の豪州産の鉄鋼石への依存度は高く、強力な経済制裁に踏み切れないとの見方が優勢だ。今週の経済指標は30日(月)豪第2四半期企業営業利益/在庫、31日(火)豪第2四半期国際収支、7月住宅建設許可件数/民間部門住宅/民間部門信用、中8月製造業PMI/非製造業PMI、1日(水)豪第2四半期GDP、2日(木)豪7月貿易収支等が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/23~8/27)の値動き: (対ドル) 安値 0.7120 高値 0.7317 終値 0.7310
(対円) 安値 78.13 高値 80.35 終値 80.33



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。